

今回の特集 : 宅造用大地震対応 L 型擁壁

大地震対応 L 型擁壁とは？

平成 18 年に改正された宅地造成等規制法で、都道府県知事が「造成宅地防災区域」を指定することができるようになりました。

また、宅地造成等規制法施行令で、大規模地震動での標準設計水平震度として $K_0=0.25$ を採用することになりました。この標準設計水平震度に地域別補正係数を乗じてその地域の設計水平震度とします。その結果、設計水平震度の最大値は $K_h=0.25$ となります。

これまでの宅造用 L 型擁壁は、中規模地震動を想定していましたが、弊社ではこの度、大規模地震動に対応する宅造用 L 型擁壁の国土交通省大臣認定を取得しました。

それが今回ご紹介する「MLウォール 型」です。

大臣認定宅造用
MLウォール 型



大規模地震動とは？

「宅地防災マニュアルの解説<第二次改訂版>」発行：ぎょうせい 編集：宅地防災研究会によると、

中規模地震動とは

➡ 供用期間中に 1 ~ 2 度程度発生する確率を持つ一般的な地震動とされ、一般に震度 5 程度の地震を想定しています。

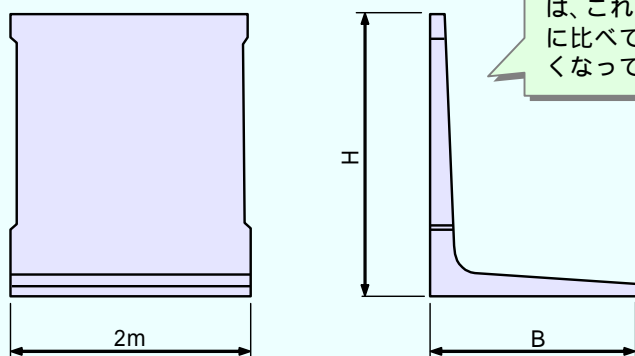
標準設計水平震度は $K_0=0.20$

大規模地震動とは

➡ 発生確率は低いですが直下またはプレート境界で発生する地震を想定した高レベルの地震動とされ、一般に震度 6 ~ 7 程度の地震を想定しています。

標準設計水平震度は $K_0=0.25$

MLウォールの新旧寸法比較表



大地震対応の「MLウォール 型」は、これまでの「MLウォール 型」に比べて、一部の規格で底版長が長くなっています。

地域によって $K_h=0.20 \sim 0.25$
東北の太平洋側はほぼ $K_h=0.25$ です。



東日本大震災では、最大震度は宮城県栗原市で震度 7 が観測されました。これ以降、大地震に対応した L 型擁壁のニーズは非常に多くなっています。
大地震に対応した「MLウォール 型」をお勧めします。

MLウォール 型 =25度用 ($K_h=0.20$)			
呼び名	壁高 H (mm)	底版長 B (mm)	製品質量 (kg)
750	750	600	630
1000	1000	750	820
1250	1250	900	1,170
1500	1500	1050	1,360
1750	1750	1200	1,850
2000	2000	1350	2,040
2250	2250	1500	2,650
2500	2500	1650	2,850
2750	2750	1800	3,570
3000	3000	1950	3,770

MLウォール 型 =25度用 ($K_h=0.25$)			
呼び名	壁高 H (mm)	底版長 B (mm)	製品質量 (kg)
750	750	600	630
1000	1000	750	820
1250	1250	900	1,170
1500	1500	1050	1,360
1750	1750	1250	1,880
2000	2000	1450	2,090
2250	2250	1650	2,730
2500	2500	1800	2,930
2750	2750	2000	3,670
3000	3000	2150	3,870

前田製管株式会社

URL: <http://www.maeta.co.jp/>

本 社 : 〒998-8611 山形県酒田市上本町 6-7 TEL 0234-23-5111 FAX 0234-24-7002
東北支社開発営業部 : 〒980-0011 仙台市青葉区上杉 3-9-4 TEL 022-263-2620 FAX 022-214-8071
関東支社開発営業部 : 〒135-0042 東京都江東区木場 5-11-17 TEL 03-5621-6473 FAX 03-5621-6455
工場 : 北海道 / 十和田 / 青森 / 秋田 / 角館 / 水沢 / 雫石 / 山元 / 宮城 / 本社 / 天童 / 東根 / 米沢 / 郡山 / 宇都宮 / 栃木
支店 : 北海道 / 青森 / 岩手 / 仙台 / 福島 / 秋田 / 山形 / 酒田 / 新潟 / 栃木 / 茨城 / 埼玉 / 千葉 / 東京